

＜＜研究報告＞＞

## 看護総合臨床実習の地域看護学領域における学生の学び

### — 実習記録の分析から —

川 村 泰 子<sup>1)</sup>, 松 尾 泉<sup>1)</sup>, 高 田 まり子<sup>1)</sup>

**要旨：**本研究の目的は、看護総合臨床実習の地域看護学領域における学生の学びについて「地域看護学実習をととしての学び」のレポートを分析することにより、地域看護活動に対する学生の学びを明らかにすることである。総合実習終了後に提出されたA大学看護学部4年次生の同意を得られた6名のレポート内容を質的データとした。実習を通しての学びを文脈の意味を壊さないように抽出し初期コードとし、意味内容の類似性を基にカテゴリー化した。その結果【地域の情報を収集し、見極める】【対象のニーズに沿ったテーマを考える】【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】【知識・技術・態度を統合できる】【保健師の地域活動の視点が分かる】の5つのカテゴリーが抽出された。対象地区の代表者と連絡調整、期日とテーマの決定、広報、実施する過程を学ぶ課程で、住民と直接関わった体験が住民の主体性を捉える事についての学びに影響していることが明らかになった。集団に対する支援と同時に個別性を重視する意義と保健師の地区活動の視点を捉える事ができたのは、継続的に地域と関わった体験から導き出されたことによるものであり、これからの地域看護学実習における演習や実習のあり方に示唆を得ることができた。

**キーワード：**看護総合臨床実習、健康教育、保健師活動

### I はじめに

2007年4月に「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」(2007)において、医療の高度化や社会の医療安全に関する意識の向上から、看護基礎教育内容の見直しが行われ、看護実践能力を強化するカリキュラムの必要性が報告された。その内容として、新たにカリキュラムに統合分野を設け、より臨床実践に近い状態で、知識と技術の統合を図っていくことが示された。これを受け、2009年4月より各看護教育機関では、新カリキュラムが導入され、看護実践力の強化に向けて取り組みが行われている。

A大学においては、新カリキュラム導入に先駆け、4年次に看護総合臨床実習を実施している。看護総合臨床実習の目的は「自主的に実務に即した実習を行い、看護実践に必要な知識と技術を統合的に体験する

こと、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養うこと」である。看護総合臨床実習は、3年次後期から4年次前期までの各領域別臨地実習終了後に、学生自身が実習テーマや実習計画を決定し、より実務に近い状態で実習を進めていく。その過程で、自己研修力や医療チームでの連携や協働を学び、看護職業人としての職業観と倫理観を培うことを目的としている。

これらを踏まえて、地域看護学領域における看護総合臨床実習では、領域別臨地実習における保健所・市町村の実習での学びを基に、対象とする地域のアセスメントをし、健康問題の把握、事業の計画、実施をする一連のプロセスを体験することによって、知識と技術の統合を測ることを目的としている。保健師の看護支援技術のひとつとして「健康教育」を実施するために、学生自身が主体的に地区の運営に関係する人々と連絡

1) 弘前学院大学 看護学部

連絡先：川村泰子 〒036-8231 弘前市稔町20-7

TEL：0172-31-7100, E-Mail: t\_kawamura@hirogaku-u.ac.jp

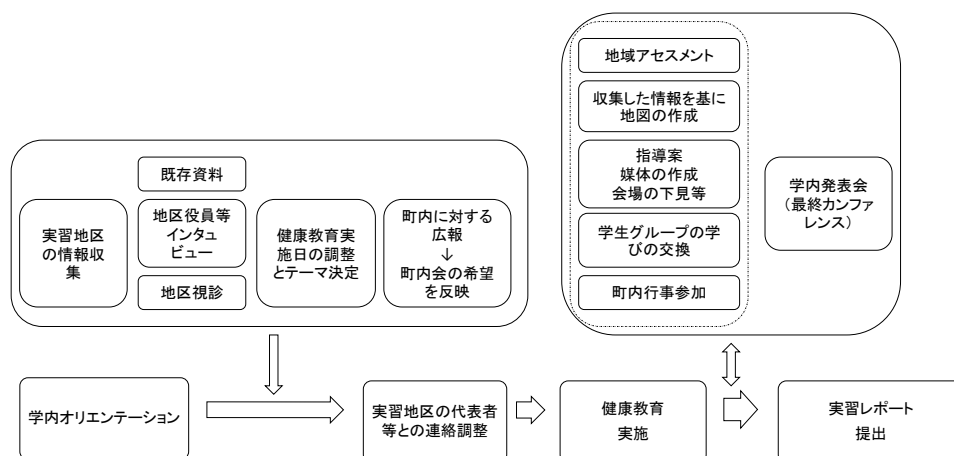


図1 実習プログラム

をとり、企画実施する体験により、地域で生活する人々を対象とした看護活動と保健師の支援の方法を理解することにつながると考える。

そこで、本研究では、看護総合臨床実習における地域看護学領域での学生のレポートを分析することにより、学生の学びを明らかにすることを目的とする。その結果は、今後の地域看護学領域の実習のあり方を検討するための、資料とすることができる。

## Ⅱ 実習の概要

### 1. 実習目的及び実習目標

#### 1) 実習目的

看護実践分野での実習を踏まえて、自己の看護の課題を明確にし、自主的に実務に即した実習を行い、看護実践に必要な知識と技術を統合的に体験する。自主的に学ぶ体験を通して、自己研修力を高め、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。

#### 2) 実習目標

共通の健康課題を持ちながら地域で生活している人々を看護の対象と捉え、健康教育の一連のプロセスを実施できる。

### 2. 実習期間及び実習施設

実習期間は平成23年7月19日から7月29日間の2週間、2単位である。実習地区はA大学近郊の協力を得られた2町内会で、学生3名を1グループとして

行った。

### 3. 実習プログラム

- 1) 対象とする地区の自治体の保健計画、保健事業等について自治体から提供された資料等を参考とし、地域アセスメントを行った。
- 2) 自治体が住民に対し行っている保健に関する情報提供（広報、パンフレット等）の内容について資料を収集した。
- 3) 地区視診を行い、地区視診のガイドラインに基づき地区に関する情報収集をした。
- 4) 地区の代表者（町内会長）等と会い、インタビューをした。

### 4. 実習指導体制

- 1) 指導体制：実習指導は大学教員が行う。地区ごとに1名の教員が担当し、実習指導とカンファレンスを行った。健康教育は地区ごとに実施し、事前のリハーサルは協同で行い、意見交換をし、学びを深めた。また、随時、グループごとの学びの共有を図るためにカンファレンスを行った。健康教育当日は、適切に運営されるように、健康教育を担当しないグループが補助的な役割を果たすこととし、健康教育を担当するグループは役割の内容について事前に説明をした。
- 2) 対象地区の代表者等との連絡は、初回の挨拶は教員が同行し、その後は学生が主体的に連絡を取った。指導教員と地域の代表者および学生との連絡を密に

し、学生からは事前学習から実施まで日程計画表の記録をするとともに、口頭での報告および日々の記録提出を作成し、日々の行動の確認と学びの振り返りをした。

- 3) 実習終了後は、実習のねらいに沿って自己評価をするとともに実施に至る過程での学びについてグループごとに発表し、学びの共有化を図った。実習レポートは実習を通して学んだことについて最終カンファレンス終了後に作成した。

### Ⅲ 研究方法

#### 1. 対象

A大学看護学部看護学科4年生のうち、看護総合臨床実習において地域看護学領域を選択した学生6名の実習終了後のレポートを分析対象とした。

#### 2. データの収集および分析方法

学生6名の「地域看護学領域実習をととしての学び」のレポートから、「地域のアセスメント」「健康課題の抽出」「テーマの決定」「実施までの計画」「指導案の作成」「健康教育の実施」「健康教育終了後の評価」について、学生の学びに関する文脈を、文脈の意味を壊さないように初期コードとして抽出した。初期コードの抽出にあたっては学生が記述している言葉をそのまま使うように留意した。初期コードの意味内容から類似性を確認し、サブカテゴリー名をつけた。次に、サブカテゴリーの内容の類似性を確認、検討してカテゴリー化し名称を付けた。

分析にあたっては地域看護学領域の研究者3名で討議、検討を繰り返し、信頼性と妥当性を高めるように努めた。

#### 3. 倫理的配慮

当該実習の成績評価が終了し結果を通知した後に、対象学生が集合している機会に合わせて、研究協力の依頼をした。対象学生に対して、研究目的・方法・倫理的配慮（研究への参加の任意性、授業や成績等に不利益を生じないこと）を口頭及び書面にて説明し、同意書の提出をもって同意を得た。

なお、本研究は、大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

### Ⅳ 結 果

対象学生6名に依頼し、6名の同意が得られた。

6名の学生の「看護総合臨床実習（地域看護学領域）をととしての学び」のレポートを分析した結果、実習を通しての学びに関する109のコードから20のサブカテゴリーを抽出した。さらに分類することによって、学生の学んだ内容について【地域の情報を収集し、見極める】【対象のニーズに沿ったテーマを考える】【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】【知識・技術・態度を統合できる】【保健師の地域活動の視点が分かる】の5つのカテゴリーを抽出した。（表1）

以下、カテゴリーは【 】, サブカテゴリーは《 》, 初期コード（学生の記述）は〈 〉で示し、結果を述べる。

#### 1. 【地域の情報を収集し、見極める】について

《地域の人々から話を聞く》《情報を地図上に整理する》《統計資料を見極める》の3つのサブカテゴリーから【地域の情報を収集し、見極める】を抽出した。サブカテゴリー《地域の人々から話を聞く》は〈住民と触れ合うと、たくさん情報を得、健康教育に生かすことができる〉〈小さな集団では、中心となっている人から話を聞くことによって、地域が見えてくる〉〈地域の中心となる人から話を聞き地域を全体的に把握することができた〉などの初期コードから捉えた。《情報を地図上に整理する》は〈町内の地図上に情報を整理し町内の全体像が見えてきた〉〈ゲートボールをしている公園から健康教育の会場までの道のりや距離を把握した〉〈地区視診で得た情報を町内の地図上にまとめていった〉ことから捉えた。《統計資料を見極める》は〈収集した情報を見極めて使用する必要性を学んだ〉〈市全体の情報は豊富だったが、町内に関する情報は少なく悩んだ〉などの初期コードから捉えた。

#### 2. 【対象のニーズに沿ったテーマを考える】について

《生活背景と住民のニーズから健康課題を考える》《健康状態から健康課題を考える》《集団から個人の特性を見出す》《人々のつながりを地域の運営に活かす》の4つのサブカテゴリーから【対象のニーズに沿ったテーマを考える】を抽出した。サブカテゴリー《生活背景と住民のニーズから健康課題を考える》は〈地域で抱えている問題が少し見えた〉〈市のアセスメント

結果からインタビュー内容を考え、インタビュー内容から住民のニーズを考えた〈地域のアセスメントをするという手順を踏み、地域が必要としているものに焦点を合わせることができると感じた〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《健康状態から健康課題を考える》は〈一般的に高齢者には高血圧が多いこと、市のアセスメントで高血圧の要指導などが多いことから血圧と運動をテーマにした〉〈高齢者には高血圧の人が多く、市の健診では血圧の要指導の人が多くに加えて、普段の生活で注意することを知りたいという要望を加えてテーマを決めた〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《集団から個人の特性を見出す》は〈地域を対象とした保健活動を展開するためには集団の特性だけでなく、個人の特性も把握する必要がある〉〈集団は健康に対する考え方や価値観が異なる個人から成り立っていることを学んだ〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《人々のつながりを地域の運営に活かす》は〈地域の特徴と、その特徴から地域の人々の生活の仕方が見えたように感じた〉〈人々のつながりによって地域は運営されていると考えた〉〈地域の人々はそれぞれ役割を持ち、地域を動かしている〉などの初期コードから捉えた。

### 3. 【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】について

《打ち合わせ・広報など、開催までの一連の準備をする》《教材の工夫をして臨む》《分かりやすい説明をすることは難しい》《反応や表情を観察し、参加を促す》《参加者の行動変容を促す》の5つのカテゴリーから【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】を抽出した。サブカテゴリー《打ち合わせ・広報など、開催までの一連の準備をする》は〈準備の最初のほうは参加者がどのような人か把握できなかった〉〈地域の代表の協力を得ることによって、より良い健康教室を行えることを学んだ〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《教材の工夫をして臨む》は〈パンフレットは図や絵を多く取り入れて作成した〉〈分かりやすく説明することが難しかった〉〈教材の工夫をすることは参加者の理解に影響がある〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《分かりやすい説明をすることは難しい》は〈質問に自信を持って答えられなかったため、今まで以上に勉強する必要がある〉〈練習もしたが、うまく説明することのむずかしさを学ん

だ〉〈参加者みんなが分かる説明の仕方を考えることは難しかった〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《反応や表情を観察し、参加を促す》は〈対象者が参加できるような進行方法を考えることができた〉〈参加者の反応や表情を観察しながらすすめることができた〉〈参加者の反応を見て学ぶことができた〉などの初期コードから捉えた。サブカテゴリー《参加者の行動変容を促す》は〈血圧について理解を得られたことから、健康管理へ意欲が向上し、予防行動をとることができるのではないかと考えた〉〈1週間後、町内の行事に参加しインタビューを実施し、行動変容を確認できた〉などの初期コードから捉えた。

### 4. 【知識・技術・態度を統合できる】について

《看護理論を活用する》《マナーを守り信頼関係につなげる》《地域住民としての自覚を持つ》《事前学習をし、グループ間で協力し主体的に実習する》《看護の知識と技術を統合する》《健康教育の評価方法が分かる》の6つのサブカテゴリーから【知識・技術・態度を統合できる】を抽出した。サブカテゴリー《看護理論を活用する》は〈コミュニティアズパートナーモデルの枠組みで情報整理をし、全体像が分かりやすかった〉〈段階別保健行動への行動科学的アプローチ（プロチャスカの変化の段階）を使用した〉、サブカテゴリー《マナーを守り信頼関係につなげる》《地域住民としての自覚を持つ》は〈地域に参加している自覚を持ち、挨拶・言葉使いなど基本的な礼儀のひとつ1つから信頼関係がつくられ、よりよい健康教育が可能になる〉〈落ち着いて発表できるようになりたい〉の初期コードから捉えた。また、サブカテゴリー《事前学習をし、グループ間で協力し主体的に実習する》は〈自分たち（学生）も地域の一員であることを学んだ〉〈地域との信頼関係が重要である〉、サブカテゴリー《事前学習をし、グループ間で協力し主体的に実習する》は〈他のグループの健康教室に参加し協力することによって、実際におこなうグループは健康教室に集中でき、よりよく行う事ができることを学んだ〉〈自分が興味のある領域であるため主体性を持って実習を行う事が出来た〉などの初期コードから捉えた。さらにサブカテゴリー《看護の知識と技術を統合する》は〈個人が対象となる健康相談では、相手のいうことをよく聞き、理解し関わる事が重要であると感じた〉〈臨床の場面でも患者の生活背景を考慮し、個別性を見出



すことができることを考えた）〈各領域の実習の学びが生かされた〉、サブカテゴリー《健康教育の評価方法が分かる》は〈参加者の感想や健康教室の準備を振り返り、プロセス評価の各項目に沿って評価することができた〉〈健康教室終了後行ったアンケートから意識変化へ介入ができたなどの影響評価を考察することができた〉の初期コードから捉えた。

#### 5. 【保健師の地域活動の視点が分かる】について

《地域と連携し、継続して関わる》《集団から個人の特性を把握し介入できる》の2つのサブカテゴリーから【保健師の地域活動の視点が分かる】を抽出した。サブカテゴリー《地域と連携し、継続して関わる》は〈保健師は継続して地域と関わり地域の健康を継続的に管理することが大切なのではないかと感じた〉〈集団から個別性を導き出す必要性や地域との連携、継続して地域に介入するプロセスを学んだ〉の初期コードから捉えた。サブカテゴリー《集団から個人の特性を把握し介入できる》は〈集団のニーズを把握するためには長期間その地域と関わる必要がある〉〈健康相談で把握した事例を家庭訪問により観察する必要があることを考えることができた〉の初期コードから捉えた。

6. 初期コードの多いカテゴリーは【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】【対象のニーズに沿ったテーマを考える】【地域の情報を収集し、見極める】【知識・技術・態度を統合できる】【保健師の地域活動の視点が分かる】の順であった。また、初期コードの多いサブカテゴリーは《地域の人々から話を聞く：13》《生活背景と住民のニーズから健康課題を考える：11》《集団から個人の特性を見出す：10》の順であった。サブカテゴリー《地域の人々から話を聞く：13》は【地域の情報を収集し、見極める】に含まれ、サブカテゴリー《生活背景と住民のニーズから健康課題を考える：11》《集団から個人の特性を見出す：10》は【対象のニーズに沿ったテーマを考える】カテゴリーに含まれる。

## V 考 察

看護総合臨床実習の目的は、「自主的に実務に即した実習を行い、看護実践に必要な知識と技術を統合的に体験すること、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養うこと」である。保健師の実務、

つまり保健師の固有の活動は、「保健師のベストプラクティスの明確化とその推進方策に関する検討会」の報告書（2008）において「保健師は個人をみながら、個人が暮らす地域社会をみて知ること、個を理解する。その結果『つなぐ』必要性をさまざまなレベルで判断し、『つなぐ』ための技術を使ってきた。その技術は、個人が自分の生活を振り返ることを支援するものであり、さらに、住民同士や住民と専門職、専門職同士のネットワークやシステムにつなぐものである」と述べている。

保健師の看護支援技術のひとつである健康教育を計画、実施した過程を通して、地域看護活動に対する学生の学び分析し実習のあり方を考察する。

#### 1. 地区の健康課題の抽出と健康教育の実施する経過を通しての学び

保健師の活動の対象とするのは地域で生活する人々と地域である。地域の健康問題は統計資料から読み取することは可能であるが、統計資料の背景にある個人を捉えるためには、地域に住んでいる人々の生活を理解することが重要であり、人々とのかわりが求められる。

〈地域の人々の個別性を理解することは町内の理解につながる〉〈住民と触れ合うと、たくさん情報を得、健康教育に生かすことができる〉など直接住民と関わることに對して、最も多い初期コードの記載があったが、対象を理解するためには生活の状況や、地域に関する情報収集が必要であることを実際に住民と話をする過程で体験として認識することが出来たと考える。地域の情報収集をするために《地域の人々から話を聞く》ことが重要であり、地域の人々との直接的な関わりは【地域の情報を収集し、見極める】ことの重要性の気づきとなっていた。学生が地域の人々と関わったことは、保健師が担当地域の人々を支援する過程で捉える「地域の現状把握」という実務に近い体験として捉える事ができ、保健師地域活動の一部を体験したととらえることができる。

また、健康教育のテーマの決定に際して【対象のニーズに沿ったテーマを考える】という住民が主体であることを考えたカテゴリーが抽出された。健康教育は対象者の行動変容を促すことであり（松尾他 2005）、住民の主体性を引き出し支えるものである。住民主体であることは〈地域で抱えている問題が少し見え

た〉〈市のアセスメント結果からインタビュー内容を考え、インタビュー内容から住民のニーズを考えた〉など住民と直接関わった体験が基になっていた。栗本ら（2008）は地域看護学実習において、対象者の反応を捉える必要性は実際の関わりでなければ学ぶことはできないと述べているが、本研究においても、統計資料の収集と分析からだけでは学ぶことができない、地域の人々との関わりや、複数回のインタビューや打ち合わせの体験から、対象を理解するためには生活の状況や、地域に関する情報収集が必要であることを学んだと捉える事ができる。

また、対象者にかかわる姿勢として《反応や表情を観察し、参加を促す》《参加者の行動変容を促す》など、住民の主体性を尊重する姿勢が求められること、そのような対応ができるようにするために《地域住民としての自覚を持つ》《看護の知識を統合するなど》、自らも主体的な行動をすることが必要であり、【知識・技術・態度を統合できる】という学びとなったと考える。

つまり、地域の健康課題を抽出し健康教育を実施する一連のプロセスの体験は、住民と接し交流を持つことにより助長され、看護の対象として地域を見ることがとなり、地域で生活する人々の生活実態が、地域の健康課題と関連していることについて学んでいた。

看護総合臨床実習においては健康教育を実施することを目的とし、継続的に主体的に地域と関わることから得た学びであると考ええる。

## 2. 健康教育の実施からの学び

健康教育は領域別実習において一度は体験しているが、看護総合臨床実習においては、地域の健康問題の把握、事業の計画、実施をする一連のプロセスを体験することが領域別実習と異なる内容である。看護総合臨床実習は連続した2週間で計画されているが、事前準備を他領域の実習と並行してすすめる必要がなければならず、4年生にとってはストレスが高い。しかし、【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】ことに関する初期コードは最も多く、健康教育は学生にとって関心が高かった。サブカテゴリーでは《分かりやすい説明をする》《教材の工夫をして臨む》など、住民が主体であることを認識したカテゴリーが見られ、学生は健康教育をする達成感のみではなく、対象のニーズを捉える事の必要性を考え、住民の主体性を認識し、既習の地域看護学と実習体験を思い起こし実習に臨む姿

勢がみられた。精神的な負担は大きい、適切な健康教育を実施するために〈教材の工夫をすることは参加者の理解につながる〉や〈参加者の反応や表情を観察しながらすすめることができた〉など、事前学習や教材等の準備をして臨んだことによって住民の反応を実感した記述がみられている。

松尾ら（2005）は、対象集団に対し健康教育を企画、実施したことに対して、負担感は大きい責任感や役割意識がグループの凝集性を高め、主体的な活動につながったと述べ、太田ら（2001）は話し合いのテーマの設定や訪問後の共有は学生全体で行うように設定し、実習体験の共有化が図られていたためといえると、実習体験の共有が学びに影響すると述べているが、《事前学習をし、グループ間で協力し、主体的に実習する》などのサブカテゴリーにみられるように、健康教育を企画、実施する過程で、グループで行動することによって学習は深められ目的の達成につながり、学生の充実感となっていると考える。

また、保健活動は対象理解・アセスメント・計画・実施・評価の流れに沿って進めていき、このサイクルを繰り返すことが大切である（日本看護協会編：2009）。健康教育を実施する過程で〈参加者みんなが分かる説明の仕方を考えることは難しかった〉〈緊張し、分かりやすい説明ができなかった〉などの初期コードがみられたが、実施結果を振り返ることは、次回の計画に生かすことができる要素として重要な気づきである。

学生は主体的に健康教育を実施し、評価しながら自己の態度や課題を明確にする努力をし、達成感につながっていた。また、同時期に同じ目的を持ったグループ間で学習過程を共有することにより自己の学習内容を振り返る機会になったと考える。

## 3. 健康教育を実施する過程で捉えた地域看護の役割についての学生の学び

看護総合臨床実習において地域看護学領域の実習目標は「共通の健康課題を持ちながら地域で生活している人々を看護の対象と捉え、健康教育の一連のプロセスを実施できる」ことである。

抽出された【地域の情報を収集し、見極める】【対象のニーズに沿ったテーマを考える】【対象のニーズに合わせた健康教育が出来る】【知識・技術・態度を統合できる】【保健師の地域活動の視点が分かる】の

5つのカテゴリーから、対象地域の実態を把握すなわち地域診断をし、健康問題を抽出し、実施・評価する過程を体験することができたと考える。

《地域住民としての自覚を持つ》《マナーを守り信頼関係につなげる》など地域看護技術だけではなく、地域の人々と関わる過程で、マナーを守ることが看護職としてのあり方や信頼関係につながることを感じていたのは重要である。社会経験の少ない学生にとって、地域で生活する人々との関わりは自らも社会を構成するひとりであることを自覚する機会になっていた。保健活動は個別的な対応に終始するものではなく、公共性の高い活動であり（日本看護協会編：2009）、住民との信頼関係が根底にあることを体験によりその一部を学んだと考える。

また、学生の姿勢は地域看護の場面だけでなく、初期コードに〈各領域の実習の学びが生かされた〉〈看護をするためにはあらゆる領域の知識と技術が必要である〉にみられるように、これまでの各領域の実習での学びを思い起こして実習に臨み、自らの学びの不足や深まりを振り返っていたととらえることができる。

野原ら（2010）は健康教育の演習の学びから、既習の地域診断の重要性とともに健康教育課題抽出の困難さを体験することで、日常の保健活動で住民の生活実態を捉えることや、住民の意見を聞く意義を改めて理解することができたと述べている。本研究においても、健康教育のテーマを決めるため住民にインタビューをし、地域の現状と考え方を聞くことにより、地域の健康課題が明らかになる事に対し実感を持ち理解できたと考える。さらに、集団の場面で把握した個人の健康問題は、家庭訪問などの個別支援につながることに對する気づきと捉える事ができる。集団に対する支援と同時に個別性を重視する意義と保健師の地区活動の視点を捉える事ができたことはひとつの成果だと考える。

このことは、継続的に地域と関わった体験から導き出されたことによるものであり、これからの地域看護学実習における演習や実習のあり方に示唆を得ることができた。

実習施設はA大学周辺の協力を得られた町内とし、健康教育を実施する過程に必要な地区の情報について町内を管轄する自治体の保健師から直接的な協力を得ることはできなかったが、地域診断に必要な情報提供は貴重な資料となった。看護総合臨床実習の効果を高

めるために、当該地域を管轄する保健師の協力を得ることは今後の課題である。

## VI ま と め

看護総合臨床実習の地域看護学領域における学生の学びと、実習のあり方について以下に述べる。

1. 学生は地域の人々と直接、主体的に関わる体験によって、保健師が担当地区に出かけ、個別や集団に対する支援の過程で捉える地域の現状把握と同様の体験となり、地区の現状把握の意義を考えることができた。
2. 領域別実習が終了後に本実習が位置づけられていることにより、領域別実習の学びを生かした健康教育を実施することができ、自己の態度や課題を明確にすることにつながった。
3. 実習の過程においてグループで行動したことは、グループ内で各自の責任を果たし、他のグループと学習過程を共有し振り返りをする事となり、実習の目的を達成することになった。
4. 集団に対する支援と同時に個別性を重視する意義と保健師の地区活動の視点を捉える事ができたことはひとつの成果と考える。このことは、継続的にひとつの地区と関わり、住民とのかわりが深まることによって得た体験から導き出されたものであり、演習や実習のあり方に示唆を得ることができた。
5. 健康教育を実施する過程で必要な地区の情報提供は得たが、町内を管轄する自治体の保健師から直接的な協力を得ることはできなかった。当該地域を管轄する市保健師の協力を得ることは今後の課題である。

## VI. 引用文献

- 1) 平山朝子（2005）：地区活動の手段としての健康教育、公衆衛生看護学体系 2, 121-127
- 2) 五十嵐久人・尾上佳代子・鶴田来美・長谷川珠代・風間佳寿美（2007）：地域看護学実習における実習経験



- 内容と自己評価, 南九州看護研究誌 Vol.5 No.1 61-65
- 3) 栗本一美・掛屋純子 (2008): 「健康教室」に関する学内演習と地域看護学実習での学生の学びと学習の効果, 新見公立短期大学紀要 第29号 51-58
- 4) 看護基礎教育の充実に関する検討会 (2007), 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書, 厚生労働省ホームページ, <http://www.mhlt.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html>. (2012/1/20 13:05アクセス)
- 5) 栗本一美・掛屋純子 (2008): 「健康教室」に関する学内演習と地域看護学実習での学生の学びと学習の効果, 新見公立短期大学紀要 第29号 51-58
- 6) 松尾和江, 酒井康江, 蒲池千草, 乗越千恵, 小林裕美 (2005): 地区診断を用いた地域看護学演習の取り組みと今後の課題, 日本赤十字九州国際看護大学 IRR 第4号 170-182
- 7) 日本看護協会監修 (2009): 保健活動の方法と技術 保健師業務要覧第2版, 38-65
- 8) 野原真理, 照沼美代子, 村山正子 (2010): 大学における地域看護学の授業展開, 医療保健科学研究, 1巻, 89-101
- 9) 酒井康江・松尾和枝・宮地文子・蓮池千草 (2008): 日本赤十字九州国際看護大学・地域看護学実習Ⅰのプログラムおよび指導法に関する検討, 日本赤十字九州国際看護大学, IRR 第6号 33-40
- 10) 日本公衆衛生協会 (2008): 平成19年地域保健総合推進事業「保健師のベストプラクティスの明確化とその推進方法に関する検討」報告書 3-5
- 11) 太田真里子, 山崎洋子, 山岸春江 (2001): 地域看護学総合実習プログラムの検討, 山梨医大紀要 第18巻 101-105

表1 看護総合実習の地域看護学領域における学び

カテゴリー	サブカテゴリー	初期コード
1. 地域の情報を収集し、見極める (21)	地域の人々から話を聞く (13)	町内会長から歴史や人々の動きを始め町内の具体的な活動に関する情報を得ることができた
		会長の話から地区の情報を得ることができた
		地域に関することを住民から積極的に聞き、会話をすることにより交流を深めることができる
		地域の中心となる人から話を聞き地域を全体的に把握することができた
		老人会の会長さんから地域に関する情報収集をすることができた
		インタビューをすることによって地域住民の活動状況や連携などの情報を得ることができ、地域にあった健康教育ができる
		地区の人々の腰痛の知識に対する認識度を把握しておくことが必要である
		地域の人々の個性を理解することは町内の理解につながる
		住民と触れ合うと、たくさん情報を得、健康教育に生かすことができる
		町内会長さんから保健師は学区ごとに健康教室を開催していると聞くことができた
		健康教室の場で得ることのできる地域を知る情報がある
		町内の情報は地区会長さんなど地区の中心になる人から聞くと概要が分かる
		小さな集団では、中心となっている人から話を聞くことによって、地域が見えてくる
	情報を地図上に整理する (5)	町内の地図上に情報を整理し町内の全体像が見えてきた
		健康教育の参加者が集う公園には休息の場があることがわかった
		ゲートボールをしている公園から健康教育の会場までの道のりや距離を把握した
		老人会の人々は健康増進のためにゲートボールをしていることが分かった
	統計資料を見極める (3)	地区視診で得た情報を町内の地図上にまとめていった
		収集した情報を見極めて使用する必要性を学んだ
		市全体の情報は豊富だったが、町内に関する情報は少なく悩んだ
		町内の統計的な情報が少なかった
2. 対象のニーズに沿ったテーマを考える (30)	生活背景と住民のニーズから健康課題を考える (11)	地域で抱えている問題が少し見えた
		市全体をアセスメントしたことにより、町内の健康課題の仮説を立てることができた
		市のアセスメント結果からインタビュー内容を考え、インタビュー内容から住民のニーズを考えた
		地域のアセスメントをするという手順を踏み、地域が必要としているものに焦点を合わせることができると感じた
		住民の生活背景を考え、集団のニーズに沿ったテーマを抽出することが必要である
		集団のニーズに沿ったケアについて考える



3. 対象のニーズに合わせた健康教育が出来る (31)		地域住民の声を基に健康教育のテーマを決めることは重要である
		地区視診や資料の情報収集からアセスメントし、その地域特性にあった健康教育のテーマを導き出すことができる
		健康教育のテーマを決めるときに集団にあったテーマを、根拠を持って導きだすプロセスを学ぶことができた
		アセスメントした結果から指導目標を設定した
		指導目標を設定した
	健康状態から健康課題を考える (3)	一般的に高齢者には高血圧が多いこと、市のアセスメントで高血圧の要指導などが多いことから血圧と運動をテーマにした
		高齢者には高血圧の人が多いこと、市の健診では血圧の要指導の人が多いことに加え、普段の生活で注意することを知りたいという要望を加えテーマを決めた
		健康教育のテーマを高血圧と運動としたが焦点を定めるために目標を見直しながら考えた
	集団から個人の特性を見出す (10)	健康教室の主役は対象者であることを考えることができた
		個人の特性が集まり、集団が形成されていることを実感した
		地域を対象とした保健活動を展開するためには集団の特性だけでなく、個人の特性も把握する必要がある
		健康教育は集団を対象とするが、その場で行う健康相談は個人の問題と関わっていることが分かった
		集団の中の個人のことも考え、接することができた
		健康教室でおこなった健康相談から個別の援助方法を導き出すことができる
		集団から個人を見出し介入することを学んだ
		集団は健康に対する考え方や価値観が異なる個人から成り立っていることを学んだ
		市全体をアセスメントしたことによって市の傾向が分かった
		情報を関連させて全体を関連させることによって効果的なアセスメントをすることができると感じた
	人々のつながりを地域の運営に活かす (6)	老人会の会長さんから得た情報を分別し、アセスメントしていくことができた
		地域の特徴と、その特徴から地域の人々の生活の仕方が見えたように感じた
		地域の人々はそれぞれ役割を持ち、地域を動かしている
		住民の協力が地域の健康教室開催に生かされる
		人々のつながりによって地域は運営されていると考えた
		健康教室の参加者の交流が深まることを学んだ
	打ち合わせ・広報など、開催までの一連の準備をする (5)	準備の最初のほうは参加者がどのような人か把握できなかった
		日時・場所・周知方法を会長と打ち合わせ、周知の期限を決めることができた
		地域の代表の協力を得ることにより、より良い健康教室を行える
		町内会長と打ち合わせをしたことにより、町内の行事や活動と重ならず、住民の集会場所で行えた
	教材の工夫をして臨む (5)	指導目標を設定し指導案やちらし・ポスター作製にあたった
		血圧の仕組みを理解してもらうためにポンプと血管の模型を工夫した
		血圧と心臓の機能を理解してもらうために自転車の空気入れとビニール袋を用い、さらに実施に運動した後血圧を計る実演をし、工夫した
		パンフレットは図や絵を多く取り入れて作成した
		教材の工夫をすることは参加者の理解に影響がある
	分かりやすい説明をすることは難しい (8)	分かりやすく説明することが難しかった
		質問に自信を持って答えられなかったので、今まで以上に勉強する必要がある
		説明の仕方の工夫をする必要がある
		練習もしたが、うまく説明することのむずかしさを学んだ
		健康教育の時の質問に答えられなかった
		一人ひとりのニーズに合わせた健康教育は難しいと感じた
		緊張し、分かりやすい説明ができなかった
		参加者みんなが分かる説明の仕方を考えることは難しかった
		健康教室の参加者が多い時には参加者の反応を多くみることができるが、対応も難しくなる

4. 知識・技術・態度を統合できる (20)	反応や表情を観察し、参加を促す (8)	練習したことは役に立った
		対象者が参加できるような進行方法を考えることができた
		参加者どうしても自分以外の人の行動を知ることができるような関わり方をした
		参加者の反応や表情を観察しながらすすめることができた
		参加者が多い時には、個別的な質問や相談の場づくりの工夫が必要になってくる
		参加者とのコミュニケーションをとることによって参加者の悩みや相談を聞くことができる
		質問に対し、あいまいなまま回答してしまった
		参加者の反応を見て学ぶことができた
	参加者の行動変容を促す (5)	影響評価では、教室終了後に参加しなかった住民に健康教室の内容を知らせており、他へ広める努力をしていると考えられる
		参加した住民は腰痛に対して予防法を理解し、適切な行動ができるという目標は達成できた
		血圧について理解を得られたことから、健康管理へ意欲が向上し、予防行動をとることができるのではないかと考えた
		健康教室1週間後のインタビューではパンフレットで紹介した料理を作ったり、腰痛体操をしていることが分かった
	看護理論を活用する (2)	コミュニティーアズパートナーモデルの枠組みで情報整理をし、全体像が分かりやすかった
		段階別保健行動への行動科学的アプローチ（プロチャスカの変化の段階）を使用した
	マナーを守り信頼関係につなげる (2)	地域に参加している自覚を持ち、挨拶・言葉使いなど基本的な礼儀のひとつ1つから信頼関係がつくられ、よりよい健康教育が可能になる
		落ち着いて発表できるようになりたい
	地域住民としての自覚を持つ (4)	地域の一員であることを自覚し看護を学びたい
		地域との信頼関係が重要である
		自分たち（学生）も地域の一員であることを学んだ
	事前学習をしグループ間で協力し主体的に実習する (3)	他のグループの健康教室に参加し協力することにより、実際におこなうグループは健康教室に集中でき、よりよく行う事ができる
		自分が興味のある領域であるため主体性を持って実習を行う事が出来た
		事前学習が足りなかった
5. 保健師の地域活動の視点が分かる (7)	看護の知識と技術を統合する (6)	個人が対象となる健康相談では、相手のいうとをよく聞き、理解し関わる事が重要である
		臨床の場面でも患者の生活背景を考慮し、個別性を見出すことができる
		各領域の実習の学びが生かされた
		看護をするためにはあらゆる領域の知識と技術が必要である
		各領域実習の知識と技術を統合的に体験できた
	健康教育の評価方法が分かる (3)	参加者の感想や健康教室の準備を振り返り、プロセス評価の各項目に沿って評価することができた
		教室終了後行ったアンケートから意識変化へ介入ができたなどの影響評価を考察することができた
		六ヵ月後にもう一度腰痛予防対策をおこなっているかインタビューをしたい。
	地域と連携し、継続して関わる (5)	保健師は継続して地域と関わり地域の健康を継続的に管理することが大切だ
		保健師の継続的なかわりが重要である
		地域への継続的介入が必要であると考えることができた
		集団から個性を導き出す必要性や地域との連携、継続して地域に介入するプロセスを学んだ
		地域との連携は地域看護活動にとって重要であることを学んだ
	集団から個人の特性を把握し介入できる (2)	集団のニーズを把握するためには長期間その地域と関わる必要がある
		健康相談で把握した事例を家庭訪問により観察する必要があることを考えることができた

# STUDENTS' LEARNING REGARDING COMMUNITY-BASED NURSING DURING COMPREHENSIVE CLINICAL TRAINING

## — ANALYSIS OF TRAINING RECORDS —

Taiko KAWAMURA<sup>1)</sup>, Izumi MATSUO<sup>1)</sup>, Mariko TAKADA<sup>1)</sup>

**Abstract:** This study aimed to clarify nursing students' learning during comprehensive clinical training by analyzing their training reports. Data were collected from 6 fourth-year students of the Faculty of Nursing, A University, whose consent was obtained.

Learning experiences were extracted as initial codes without changing their contexts, and were classified into the following 5 categories based on semantic and content similarities: [collecting and examining community-related information]; [determining a theme to meet an individual's needs]; [providing health education in consideration of an individual's needs]; [integrating knowledge, skills, and behavior]; and [understanding public health nurses' viewpoint on community-based activities]. It was demonstrated that the students' experience of directly communicating with community leaders and other residents when arranging for and providing health education influenced their learning regarding community initiatives. Their experience of being continuously involved in the community may have led them to understand the importance of respecting individuality while supporting group activities and public health nurses' viewpoint on community-based activities. These results may provide a basis for future community-based nursing practice and training.

**Key words :** Comprehensive clinical training for nursing students, health education, public health nursing

---

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University

TEL : 0172-31-7100, E-Mail: t\_kawamura@hirogaku-u.ac.jp